

岩谷産業株式会社（8088）2024年3月期中間決算説明会 質疑応答要旨

開催日時：2023年11月17日（金）10時30分～11時30分

Q 1. 上期業績は、産業ガス・機械事業の貢献が大きく好調な決算に見えるが、要因を伺いたい。

また、通期業績予想を据え置いた背景も教えて欲しい。

A 1. 産業ガス・機械事業においては、前年度上期から電気、LNGなどのエネルギーコスト高騰があり、お客様に対して価格交渉を進めたが、前年度上期では積み残しがあったが、一方で足元では、価格対応はほぼ完了している。

通期業績予想では、LPガスの市況要因はゼロと想定しているが、足元の輸入価格600ドル、現行の為替水準で推移すると、前年同期と同程度のマイナス影響が残る可能性がある。これを好調な産業ガス・機械事業がカバーすると考え、業績予想を据え置いている。

Q 2. オーストラリア・クイーンズランド州のCQ-H2プロジェクトにおいて、最終的な投資決定に向けた課題はあるのか。

また、オーストラリアにおける政権交代により、エネルギー政策変更などによる事業への影響はあるのか伺いたい。

A 2. クイーンズランド州におけるプロジェクトでは、シンガポールと日本に水素を輸送する計画であり、投資判断を行うには各国政府の具体的な支援内容が判明してからとなる。基本設計であるFEEDは順調であり、来年には最終的な投資の判断をする。当社では、オーストラリアにおいて、クイーンズランド州のプロジェクトではグリーン水素を、日本水素エネルギーのプロジェクトでは褐炭由来の水素を製造する計画だが、豪州政府の支援方針に変更はない。

Q 3. 日本政府による、海外で製造した液化水素の受入基地に関する支援制度はどのような進捗状況か教えて欲しい。また、日本政府の支援策はいつ頃確定すると想定しているのか伺いたい。

A 3. 政府の支援については、経済産業省の水素・アンモニア政策小委員会にて検討されているが、まだ固まっていない。値差補填や拠点整備など、支援の枠組みについて、今年度中に法制化、来年度には公募開始を目標に議論されている。多少遅れることも想定しているが、遅くとも来年度中には詳細が決定すると考えている。

Q 4. 水素事業に関して、大規模な水電解を行うなど、国内でグリーン水素を「つくる」ことを検討しているのか伺いたい。

A 4. 国内における電気代が海外並みになることや、水電解をより効率的に行えるように技術革新があれば、国内でも検討に値するが、現在はそのような状況にないため、「つくる」拠点としてはオーストラリア、北米を中心に考えている。一方で、国内での水素エネルギー社会への移行期間における水素需要が伸びており、今後、現状の3工場の製造能力を超えることが予想され、よりグリーンな水素の国内製造拠点が必要と考えている。ただ、グリーン水素の製造コストは高く、政府の支援も必要となる。また、グリーンの定義もあいまいであり、中部地区で検討している廃プラスチックを活用した水素製造も国際的にグリーンと理解されるのかなど、課題がある。水素需要の拡大に合わせて、様々な供給力の強化を検討していく。

Q 5. 水素事業に関して、脱炭素向けの需要動向を教えて欲しい。

A 5. 水素に加えて、アンモニアについても案件数が大きく伸びてきている。水素では、年間で10件ほどの新規案件の引き合いがある中、半分以上が脱炭素用途である。特に海外比率が高い製造業のお客様が、欧州市場を意識して水素を利用した機器への移行を視野に、実証を国内で行われている。また、アンモニアに関しては、混焼の実証で使用されている。

Q 6. L Pガスにおいて、数量が減少する中、収益性が改善しているが、どのような背景か教えて欲しい。

A 6. 数量に関しては、民生用は対前年同期 9 5 %程度となったが、収益性については、全体として、運送コスト、人件費などの事業コストが上昇する中で、卸売を含めて、お客様に価格改定を進めた事で、収益の改善が図れた。引き続き、市況変動を適正に価格改定するとともに、配送の合理化を進め、価格競争力を強化する。

Q 7. 9月末で L Pガス直売顧客数が 1 万世帯増加した内容はどのようなものか教えて欲しい。

A 7. 顧客数の増加要因では、M & A が一番多く、次に、他社切替、新築獲得となる。逆に減少要因は、他社切替、次に取り壊しとなっており、結果として、1 万世帯増加した。

Q 8. L Pガスの市況要因に対する、今後の取り組みを伺いたい。

A 8. L Pガス市況要因の低減に向けては、卸売価格が輸入価格に連動している中、前月だけではなく、当月の輸入価格を反映、在庫評価方法の変更などを検討しているが、輸入事業者として備蓄義務がある限りは、市況要因がなくなることは難しいと考えている。

Q 9. 産業ガス・機械事業に関して、国内で新たに半導体工場の建設の話が挙がっているが、半導体向けにはどのような取り組みを行っているのか伺いたい。

A 9. 半導体工場へは、窒素などのエアセパレートガスに加え、エッチング用の特殊ガスなどを販売している。海外から日本に進出する半導体企業や、パワー半導体に注力する国内企業に対して、営業活動を行っている。

Q 10. マテリアル事業のミネラルサンドに関して、上期実績、及び今後の見通しについて、数量面と価格面について教えて欲しい。

A 10. 海外のミネラルサンド事業は、岩谷オーストラリアで行っており、上期業績は順調に推移している。岩谷オーストラリアでは 2 鉱区で採掘を行っており、生産数量としては前年並みで概ね 1 0 万トン強である。一方、価格については、中国における需要減退で資源市況が下落傾向にある。

Q 11. 配当金額の決定は、基本的には年度末に決定する方針か、教えて欲しい。

A 11. 当社の業績は、主力商品の L Pガス販売に影響を与える、冬場の気温や市況要因の動向を踏まえる必要があるため、年度末に行う方針である。

注意事項：

将来にわたる部分につきましては、予想に基づくものであり、確約や保証を与えるものではありません。実際の業績等につきましては、予想と異なる結果と成りうることを十分にご認識の上ご活用ください。

お問合せ先：

岩谷産業株式会社 経営企画部 I R担当
TEL：03-5405-5706 FAX：03-5405-5776
Webサイト：<https://www.iwatani.co.jp>